

助産師職能委員会活動報告

I 構成：委員長 野口純子 副委員長 梶原志保
委員 9名

II 職能委員会開催状況：10回

III 検討事項ならびに活動状況

1. 令和元年度職能合同交流集会

日時：6月16日（日）15：00～16：30

テーマ：保健師・助産師・看護師Ⅰ・看護師Ⅱ職能活動の報告と全体討議

参加者：28名

2. 職能委員会の役割の確認

3. 職能委員会活動方針

令和元年度は、日本看護協会の重点政策・重点事業の「地域包括ケアにおける看護提供体制の構築・母子のための安全・安心な地域包括ケアシステムの構築」に基づき、香川県看護協会助産師職能委員会では、母親と子ども（家族）が安全で安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備に向けた活動として、一人ひとりの助産師が、自らの助産実践能力を最大限に発揮できるような取り組みを進めていきたい。

具体的には2つの検討会「①地域と施設との連携体制の推進」、「②助産実践能力の強化支援と院内助産システムの推進」を中心に、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援、災害発生時に対応する周産期における体制整備、CLoCMiP®を活用した助産実践能力の強化、新人助産師がアドバンス助産師を目指し自律した助産ケアを提供できるような支援を進める。さらに、地域で生活している母子への支援について、三職能で連携・協働した活動を推進することを目指すこととする。

4. 検討会設置（○印はリーダー）

1) 助産実践能力の強化支援と院内助産システムの推進に関する検討会

委員：5名 ○椎野真由美 石田視鈴 宮崎直美 岩田千恵 梶原志保

開催状況：10回

目的：CLoCMiP®を活用した中堅助産師の助産実践能力の強化とアドバンス助産師として自律した助産ケアが提供できるよう支援する。

内容：今年度は2015年から始まったCLoCMiP®レベルⅢ認証申請時にアドバンス助産師を取得した助産師の初めての更新申請を控えており、これまでの活動や学び、さらに質の高いケアを提供し続けていくには何が必要かを委員会で検討した。具体的には、アドバンス助産師として活動を継続するためにCLoCMiP®Ⅲ更新を控えた助産師にむけて、アドバンス助産師として継続した活動ができるようニュースレター「レッツゴー・アドバンス助産師」を作成し、更新にむけた研修案内や報告を偶数月に発信した。

また、研修会の企画には、妊娠期に特化したケアや技術習得の研修を企画し、昨年度と同様に県内助産院の協力及び産婦人科医師の協力も得て開催することができた。分娩期に助産技術を発揮する助産師である以前に、妊娠期からの妊婦への丁寧な保健指導やケアを実践できる助産師として助産ケア能力を高めていくことが

重要である。今年度の研修では、妊娠期のケアや技術を学び、今後の助産実践能力強化と継続した支援にむけた今後の取り組みと内容を検討した。

さらに、研修後に参加者からの意見をまとめ、個々の助産師からの意見及び各施設での院内助産システム導入に向けての課題や解決策、アドバンス助産師の活動などについての意見をまとめ、助産師主導で実践できるケアや今後の研修内容について検討した。

2) 地域と施設のネットワーク検討会

委員：4名 ○小林紀子 池下真央 肥本裕子 小田真由美

開催状況：9回

目的：地域と施設が、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援ができる体制を整えるために、産後2週間健診の課題について検討することで、産後の支援について考える。

内容：平成28年～2年間、日本看護協会「子育て世代包括ケアシステム推進のためのモデル事業」へ保健師職能委員会と協力して取り組んだ事を契機に、妊娠期からの切れ目のない母子支援に取り組んでいる。香川県でも産後うつ予防や新生児への虐待予防等を図る観点から、令和元年10月より産婦健診（2週間健診）が公費負担で受けられるようになった。今年度は、職能委員が所属している病院での産後2週間健診の現状を把握し、今後の課題を明確にすることを目的としアンケート調査を行い、施設の課題を検討した。

また、昨年度に引き続き三職能合同で研修会（演題：「周産期メンタルヘルスケアの実践から見える多職種連携のあり方を考える～妊娠期からの切れ目のない母子支援のための体制構築にむけて～」講師：医療法人福岡輝栄会病院健診科 鈴宮寛子先生）を企画したが新型コロナウイルスの影響で開催延期となり、次年度に開催予定となった。

5. 活動報告

1) 新人助産師研修開催（資料1）

期間：8月17日（土）～令和2年2月15日（土） 6回開催した。

場所：新生児蘇生法と施設見学（香川大学医学部附属病院）、香川母性衛生学会学術集会への参加以外は、香川県看護協会看護研修センターで実施した。

参加者：県内の産科病棟を有する、9施設から17人が参加した。全日程を受講することができた10人に修了証を交付、全日程の出席がかなわなかった7名には受講証を交付した。

内容：研修の受講にあたり「研修ノート」を活用し、毎回の研修時に研修受講の目標を明確にして臨み、研修終了後に学びをまとめ、自主的に研修に参加し自身の学びをまとめるように促した。毎回の「研修ノート」はファイルしてポートフォリオを作成し、今後助産師としてキャリアを重ね CLoCMiP®レベルⅠ～Ⅲへ進む為の基礎となるように働きかけた。研修内容は、「ワークショップ『めざす助産師像』」、「周産期における安全管理」、「新生児心肺蘇生法」、「胎児心拍数のモニタリングの判読」、「分娩時出血の対応」「産後の支援」などである。研修では、講義・演習（グループワーク・実技）を取り入れ、先輩助産師である助産師職能委員がファシリテーターとなって必要時助言を行った。また、学術集会に参加することで「周産期のメンタルヘルス」についての理解を深め、妊娠期からの切れ目の支援の中でも心のケアや多職種との協働・連携についての重要性を学ぶ機会となった。

2) 中堅助産師研修開催

今年度は、中堅助産師・産科管理者対象研修と香川県助産師出向支援導入事業の支援を得て

の研修会を開催した。

(1) 日 時：11月23日（土）9：00～12：00

場 所：香川県看護協会 看護研修センター

内 容：演題「母子にとって望ましい出産環境の体制整備と助産師の活動」

講 師：日本看護協会 常任理事 井本寛子先生

内 容：研修目的は、ハイリスク妊婦の増加及び産科医師の減少など周産期における課題（産科混合病棟での課題、助産業務の実際など）が多様化・複雑化している状況の中で、母子にとって安全・安心できる出産・子育て環境を整備するために、どのような体勢整備が必要か、また、看護職（助産師・看護師）の活動はどうあるべきか理解を深めることであった。今年度初めて、助産師だけでなく産科管理者にも参加していただくことができ、講演後に自施設での現状分析と母子のケア体制についてあるべき姿を整理し、自施設での体制整備に必要なプロセスについて意見交換した。参加人数は、31人（助産師：23人、看護師：8人）で、看護部管理者（6人）と産科病棟管理者（13人）も含まれていた。母子にとっての望ましい出産環境の整備に関する課題は、産科混合病棟の課題・助産師の業務に関する質と量、必要人数など大きいですが、産科管理者と助産師がグループに分かれて意見交換を行うことができた。参加者からは、「自施設の課題をデータ化し、可視化して伝えること、実績を示して看護管理者と話し合うこと、地域ともしっかり連携を密にする、産科混合病棟の問題には自分達の工夫が必要であると共に産科病棟だけでなく病院全体で考えることも重要である」など、助産師だけでなく母子に関わる看護職者が現状の課題について意見交換を行うことで母子へのケアに対してのあるべき姿を見出し、課題解決に向けての行動の必要性を考える機会となった。このような出産環境の整備について産科管理者と中堅助産師が共に考える機会を継続してほしいという意見も多かった。

(2) 日 時：令和2年2月22日（土）9：00～12：10

場 所：香川県立保健医療大学 実習室

内 容：研修会「分娩期における助産実践能力の強化をめざして～妊娠中の超音波検査に強くなろう～」を開催した。

研修会の講師には、①助産師外来・分娩期に必要な胎児超音波検査の知識と技術：天雲千晶先生（香川大学医学部周産期学婦人科学助教）②安産に向けた妊娠中からの体づくり～助産院のケアから学ぶ～：松尾真璃先生（NPO 法人いのちの応援舎 ぽっこ助産院院長）を迎え、助産師40人（病院34人、助産院2人、その他4人）が受講した。各々の講義と演習を取り入れ、超音波検査についてはモデルを用いて演習を行った。参加者が予定していた30人を超えた為全員が演習を実施することができなかった。

参加者からは、「病院だとできることに限界があるが、助産師として何かもってできることがないか検討したい」「超音波検査はどんどん実施していこうと思った」「次回は超音波検査の演習をしたい（今回は人数が多くできなかった）」など多くの意見があった。

3) 令和元年度中国四国助産師職能合同研修会「メンタルヘルスケアワークショップ in 徳島」
「中国・四国ブロック合同事業」への参加

日 時：9月21日（日）10：00～16：30

場 所：徳島県徳島市 徳島県 JA 会館 大ホール

内 容：中国四国地区9県合同で研修会を開催した。ワークショップの目的は、虐待予防や妊産婦の自殺予防等、周産期における母子のメンタルヘルスケアの理解を深め、切れ目のない支援のための看護機能の連携強化を図り、妊産婦がより専門性の高い

助産ケアを受けられることである。

まず、(公社)日本看護協会の取り組みとして、福井トシ子会長から講演「日本看護協会の取り組み メンタルヘルスに取り組む看護職に望むこと」の後、「徳島県における母子メンタルヘルスケアの取り組み」:(鳴門市版ネウボラについて、育児支援外来について)が報告された。その後、愛知医科大学看護学部の山本弘江先生より講演「妊産婦のメンタルヘルスケア」の後、「メンタルヘルスのために助産師ができること」についてグループワークに取り組んだ。参加者は、136人(香川県からは31人参加)で、CLOMIP®レベルⅢ認証申請のための[WHC]区分の研修275分に該当しており、多くの参加者となった。参加者からのアンケート結果では、「テーマに興味を持てた」「内容が理解しやすい」「参考になった」という意見が9割以上を占めた。「他県の病院の助産師・保健師との交流が出来、楽しいグループワークでした」「妊娠・産後ケアの必要性を感じた」「私達助産師が、支援を求めている人に必要な支援を受けられるようアセスメントしサポートしてあげることが大切だと感じた」などがあつた。

中国・四国地区合同ワークショップは、平成24年度から毎年各県持ち回りで開催しており、8年間継続して実施している。令和2年度は、島根県で開催されることが決定しているが、令和3年度以降の継続については、今後協議される予定である。

4) 日本看護協会職能委員会への協力

- (1) 令和元年度都道府県看護協会助産師職能委員会活動に関する情報収集に協力
- (2) CMセーフ・マザーフード募金活動に協力

研修会の際に募金箱を設置して活動を行った結果、3,707円の協力を得て、日本看護協会に振り込み(令和2年3月16日)、ICMセーフ・マザーフード基金に協力した。

6. 出席会議

1) 令和元年度 第1回全国助産師職能委員長会

日時:8月21日(水)10:00~16:00

場所:東京都渋谷区 アルカディア市ヶ谷 私学会館

出席者:梶原志保 野口純子(本会職能委員として出席)

内容:

《全体会》 10:00~12:00

報告事項・質疑応答

- (1) 令和元年度本会重点政策・重点事業計画について
- (2) Nursing Now について
- (3) 都道府県看護協会支部役員等研修について
- (4) 看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイドについて
- (5) 診療報酬に関する進捗状況について

《助産師職能委員長会》 13:00~16:00

以下全国の報告・講演が行われた。

- (1) 平成30年度助産関連事業報告と平成30年度助産師職能委員会活動報告
- (2) 令和元年度重点政策・重点事業と令和元年度助産師職能委員会活動方針
井本委員長より、上記(1)(2)について説明があつた。重点政策・重点事業(助産関連)には、2:地域包括ケアにおける看護提供体制の構築、2-3:母子のための安心・安全な地域包括ケアシステムの構築、実施内容として、1. 出産環境の体制整備:1) 母子のための地域包括ケア病棟(仮称)の検討、2) 出産環境の改善に関する情報収集・情報発信、2. 医療的ケア児への看護提供体制の整備:1) 医療的ケア児を支援するための看護提供

体制整備に関する検討である。2019年度の助産師職能委員会の活動方針としては、1)～3)の活動目標を掲げている。

1) 出産環境の体制整備に関する課題発見・意見集約（院内助産・助産師外来の推進に関すること、産科混合病棟におけるケア提供体制に関すること、出産環境の改善に関すること）、2) 医療的ケア児への看護提供体制の整備に関する課題発見・意見集約（医療的ケア児を支援するための体制整備に関すること、小児在宅移行支援に関わる人材の育成に関すること）、3) 周産期医療体制整備と女性の生涯にわたる健康を支援するための助産実践能力強化に関する課題発見・意見集約（災害時における周産期医療体制の整備に関すること、働く看護職の妊娠・出産・育児に関連した支援に関すること、女性の生涯にわたる健康を支援するための助産実践能力の強化に関すること）である。

(3) 助産師職能委員長が各都道府県の実情に沿った助産関連の課題を発見するために、有限会社ノトコード 代表 平林慶史先生を講師に迎え「ニーズ分析に基づき、組織の課題（目標・問題）を可視化する」について講演があった。現在の学習する組織のマネジメントについて講義があった。目標や価値の設定は管理者が行い、管理者が問題解決していく「上意下達型組織」から、困っている事を発信し、チームで問題解決に取り組む組織学習・相互支援を管理手法とする「学習する組織」に変化してきている事を知った。変化する目標や価値観を組織内にきちんと伝え、試行錯誤（PDCA）を止めない事。現時点の問題を共有し、試行のフレームワークを共有することで学習と変容を価値づけることが出来る。組織の目標・問題という管理者の論点を可視化し共有することで行動計画として表され、課題解決に向かっていく事が出来ることを学んだ。

(4) グループワーク：「各都道府県の実情に沿った助産関連の課題を発見しよう」のテーマで6地区に分かれてグループ討議を行った。グループワークでは、各都道府県の実情に沿った助産関連の課題を発見しようと題し討議した。最後に顧客ニーズ分析シートを用いて、四国グループではアドバンス助産師の100%更新を目標に掲げ、課題を明らかにし、自部署・自県の職能委員活動についてヒントを得る事ができた。8月に発行したアドバンス助産師更新にむけたニュースレターも効果的な方法であることを確認できた。

2) 令和元年度 地区別助産師職能委員長会・都道府県看護協会支部役員研修

日 時：10月16日(水) 9:00～16:00

会 場：愛媛県松山市 ANA クラウンプラザホテル松山

出席者：梶原志保 野口純子(本会職能委員として出席)

内 容：

(1) 委員長挨拶（井本寛子助産師職能委員長）の後、各県職能委員長の自己紹介

(2) 令和元年度日本看護協会重点政策・重点事業（助産関連）事業報告

① 出産環境の体制整備

② 医療的ケア児への看護提供体制の整備

(3) 令和元年度日本看護協会重点政策・重点事業以外の助産関連事業報告

(4) 討議内容

全国助産師職能委員長会のグループ討議後に助産師職能委員長として取り入れたことの共有及び各都道府県における助産関連の現状と課題の共有と検討を行った。

中国・四国地区における助産関連の現状と課題の共有と検討においては、分娩を扱う施設の減少や、それに伴う助産師の働き方の変化、産科混合病棟の現状と問題、院内助産・助産師外来について多く討論された。少子超高齢化による影響は、産科混合病棟への男性患者の入院や母子同室中に隣のベッドに認知症患者が混在する現状にも及んでいる。このような現状にしっかりと向き合い、安全で安心な出産環境の整備においてどのような視点でマネジメントしていかななくてはならないか考えなくてはならないと強く感じた。

(5) 委員長まとめ

産婦人科医会、産科婦人科学会からもタスクシフトの観点から、院内助産・助産師外来の推進、アドバンス助産師の活用が挙げられている。ガイドラインの定義通りの「院内助産をやっている」という勇気を持ってほしい。実力をもったアドバンス助産師が増えること、助産師外来・院内助産を進めること、実数も鍵となっていく。熱く語り伝えること、病院幹部との交渉の為の準備、産科医師の院内の立場と協働、将来の地域構想、事業参加や行政へのアプローチ、県協会長の協力や看護管理者の理解、何より分娩施設がなくなったらこの妊産婦は誰がみるのかを考えてほしい。医療提供体制・病院機能再編の中で、常に考えていくことが重要である。と井本委員長からのまとめがあり、短い時間であったが、有意義な会議となった。

7. まとめ・課題

日本看護協会の重点政策・重点事業の「地域包括ケアにおける看護提供体制の構築・母子のための安全・安心な地域包括ケアシステムの構築」に基づき、香川県看護協会助産師職能委員会では、母親と子ども（家族）が安全で安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備に向けた活動として、①「助産実践能力の強化支援と院内助産システムの推進に関する検討会」②「地域と施設のネットワーク検討会」の2つの検討会を中心とした活動を展開した。香川県助産師出向支援導入事業の支援を受けて、助産実践能力の強化支援に関する研修会を企画・実施することが可能となった。昨年度の「フリースタイル分娩を中心とした分娩期の助産ケア」に続き、今年度は「妊娠期の超音波検査、安産に向けての妊娠期からの体づくり」に関する研修会を開催することができた。アドバンス助産師の取得及びアドバンス助産師の更新に向けて、助産師自身が助産実践能力を更にブラッシュアップしたいという気持ち強いことが伺われた。講義で知識を得るだけでなく、演習を通して自身の技術を磨きたいという希望が多く、受講希望者の人数が受講可能者の人数を上回るという状況が続いている。一人ひとりの助産師の実践能力強化とアドバンス助産師を取得するための支援としての研修会開催への支援が望まれる。さらに、令和元年度より、県下一斉に産婦健診の公費負担が実施となり、各施設での産後2週間健診が10月より本格的に実施となった。地域と施設のネットワーク検討会では、これまで地域との連携強化を目指して三職能が協働した取り組みとして、継続看護連絡票の見直しや「妊娠期からの切れ目のない母子支援に向けた看護の視点」（案）を作成した。全産婦に対しての2週間健診の実施は、施設毎の課題を明らかにするとともに、助産師個々のスキル（メンタルヘルスケアに関する研修など）も求められることを痛感しており、9月21日に徳島県で開催された中国四国地区合同研修会「メンタルヘルスケアワークショップ in 徳島」には、香川県から31人が参加しメンタルヘルスケアについて研修を受講することができた。このように、香川県内だけでなく中四国地区合同での研修の機会は、研修受講の機会が少ない本県にとっては、大変有意義な機会となっている。是非とも次年度以降も継続して開催できることを願っている。

また、9年目となった新人助産師研修の受講者は152人となり、「研修シート」の学びに記載された内容や意見交換から、新人当初の不安な時期に、他施設の新人助産師及び先輩助産師と交流することで、新人助産師の視野や考え方を広げることができたようである。「研修ノート」はファイルしてポートフォリオを作成し、今後助産師としてキャリアを重ねCLOCMiP®レベルⅠ～Ⅲへ進む為の基礎となるように働きかけた。研修内容は、「ワークショップ『めざす助産師像』」、「周産期における安全管理」、「新生児心肺蘇生法」、「胎児心拍数のモニタリングの判読」、「分娩時出血の対応」、「産後の支援」などである。講義・演習（グループワーク・実技）を取り入れ、先輩助産師である助産師職能委員がファシリテーターとなって必要時助言を行った。また、学術集会に参加することで「周産期のメンタルヘルス」についての理解を深め、妊娠期からの切れ目の支援の中でも心のケアや多職種との協働・連携についての重要性を学ぶ機会となった。毎年県内に新卒助産師として就職する人数は、15人～18人程度であり各施設に分散しており、多施設合同での新人研修は、県内で働き続けられる仲間づくりに繋がっていると考える。今後は、新人助産師研修から

CLoCMiP®を活用して、アドバンス助産師を目指す中堅助産師研修へと繋がるような運営が重要となる。助産師の実践能力を評価する全国共通のしくみとして開発された CLoCMiP®レベルⅢ認証制度が、平成 27 年度から開始され、平成 28 年度と合わせて、合計 11,002 人のアドバンス助産師が全国で誕生している。香川県では、133 人のアドバンス助産師が誕生しており、平成 30 年度に、第 3 回目の CLoCMiP®レベルⅢ認証申請では、香川県から新人助産師研修を受講した 2 人がアドバンス助産師の仲間に加わった。令和元年度は新たに 5 人のアドバンス助産師が香川県で誕生している。今後は、新人助産師研修から CLoCMiP®レベルⅠ～Ⅲに進んでいけるように、認証・更新に向けての支援と共にアドバンス助産師の活動の紹介・活動の場の拡がりについての情報発信していく必要がある。今年度は、ニュースレター「レッツゴー・アドバンス助産師」を 2 カ月に 1 回配信して、研修情報や更新に向けての情報発信を試みた。いよいよ 2010 年度（令和 2 年）は、「アドバンス助産師」の初回更新の年となる為、更新対象となる助産師がスムーズに準備ができるように引き続き支援したいと考える。

平成 28 年度から稼働し始めた院内助産システムでは、「アドバンス助産師」が中心となり活動している。現在は、2 施設で院内助産が実施されているが、2018 年 3 月に策定された「院内助産・助産師外来ガイドライン 2018」を、今後の院内助産・助産師外来開設時や運営の参考にするとともに、現在実施している医療機関では、自己点検に活用していきたい。県内での「院内助産システム」の拡がりや、全ての妊産褥婦・新生児（家族）に対し、安全で安心な助産ケアが提供できる環境を整えることに繋がるように、地域と施設の役割を互いに理解して、三職能だけでなく多職種との連携を大切にして職能活動に取り組むことが重要であると考えます。

令和元年度新人助産師研修活動報告

目的：新人看護職員が基本的な臨床実践能力を獲得するための研修を実施することにより、看護の質の向上及び早期離職防止を図る。

目標：①香川県内で楽しく生き生きと働き続けられる仲間づくりができる。

②毎回、自己の目標を設定し終了後は達成状況を明らかにする。

③研修に関する予習や復習を徹底し知識や技術を確かなものとする。

④討論など主体的な姿勢でのぞみ事象と対峙する姿勢を育む。

⑤めざす助産師像や助産師観を形成し助産実践力と共に発展できる。

回	月日・場所	テーマ
1	8月17日(土) 香川県看護協会看護研修センター	① 新人助産師研修ガイダンス(助産師のキャリアパス/ラダー) ② 周産期における安全管理 ③ ワークショップ：助産を語る ・「めざす助産師像・助産師観」、コミュニケーション技術
2	9月14日(土) 香川県看護協会看護研修センター	④ 分娩時の出血への対応 ⑤ 胎児心拍数モニタリング(CTG)の判読
3	10月20日(日) 香川大学医学部附属病院	⑥ 新生児心肺蘇生法(講義・演習)
4	12月7日(土) 香川県立保健医療大学大講義室	⑦ 第20回香川母性衛生学会学術集会参加 テーマ「妊産婦のこころを支える -いま、何ができるのか-」
5	令和2年1月11日(土) 香川大学医学部附属病院	⑧ 施設見学「香川大学医学部附属病院における継続看護の実際」 ⑨ 特定妊婦への支援
6	2月15日(土) 香川県看護協会看護研修センター	⑩ 産後の支援を考える～こんにちは赤ちゃん訪問～ ⑪ 新人助産師研修まとめ(グループでの意見交換と研修のまとめの発表)

【計：21時間】

助産師職能委員会活動の一環として企画・運営している、県内の多施設合同新人助産師研修は、9施設から17名が参加した。毎回の研修では、「研修ノート」を活用し、毎回の研修受講時に研修の目標を明確にして臨み、研修終了後に自身の学びと今後の自己の課題をまとめた。受講生の意見から、“事例ごとに医師に報告すべきなのか経過観察でよいのかを考えることで、同じような状況の時に、どう対応・行動することが大切なのか学べた”“実際の事例を取り上げて説明していただき具体的に学べた”“等の意見があった。臨床での実践に繋がる研修内容であり、自身の助産ケアを振り返ると共に今後の実践に活かせる内容であったと考える。全日程を受講した10名に修了証を、全日程の出席が出来なかった7名には受講証を交付し、ポートフォリオを継続できるようにした。6回の研修を受講することで知識や技術の習得だけでなく、入職後5か月目以降の不安な時期に他施設の新人助産師や先輩助産師と交流することで、新人助産師の考え方や視野を広げる機会となったことが伺えた。今年度の研修で9年目となり、152名が受講した。